日本教材学会

The Japanese Association of Teaching and Learning Materials

通 信

〒162-0831　東京都新宿区横寺町64-2 エデュイン神楽坂
TEL　03-5946-8717／FAX　03-3267-1047
URL　http://www.kyozai-gakkai.jp

目　次

☆巻頭言　日本教材学会副会長 ..... 市川　洋子　1
☆特集　学習指導要領の改訂によって教科書はどのように変わったか
横山みどり、関根　千保　2
☆第 36 回研究大会報告　花園　隼人　2
☆各支部活動報告 ..... 事務局　4
☆事務局だより ..... 事務局　4

〈巻頭言〉目まぐるしい変化の中ですが香川で教育の未来について語り合おう

日本教材学会副会長　市川　洋子

満を持して、対面による研究発表大会が、北海道教育大学旭川校において開催されました。5 年ぶりのことです。本格的な寒さが到来する前の紅葉の美しい時期に、参加者の皆様と教材のことについて語り合うことができました。北海道教育大学の樺沢公一大会実行委員長をはじめ実行委員会の皆様のご尽力によるものです。改めて感謝申し上げます。

コロナ禍を通して、私たちは自宅にいながらにして日本中の人と話ができる便利なツールを手に入れました。そして今回は、対面の良さを再認識することができました。大会の中で「生成 AI と教材」をテーマとしたシンポジウムやそれに続く「生成 AI を活用した授業設計」のワークショップを通して、生成 AI がここまで進んでいるのかと驚嘆と不安を感じました。生成 AI だけでなく、社会全体も驚異的な速さで変化し続けています。教育改革もめまぐるしく、朝令暮改の様相を呈しています。

最近では、授業時数特例校や授業時間短縮の取り組みによって、全国各地の小学校で 40 分授業が行われるようになりました。これまでの教材を使って、授業時間を 5 分縮めればいいという単純なことではなく、45 分授業を想定して作成された教科書を活用しつつ、40 分という時間をどう構成するか、そのための補助教材はどうあるべきかを再検討する必要があります。

また、文部科学省は、2024 年 12 月 25 日の中央教育審議会総会で、次の改訂に向けた検討を諮問しました。それによると、以下のような検討を求めているそうです。

○生成 AI の発展などを踏まえ、知識の集積だけでなく、深い意味の理解を促す学びのあり方
○デジタル分野を含めた先端技術の教育の充実
○情報モラルやメディアリテラシーの育成強化
○自動翻訳機などが普及する中での外国語教育のあり方
○子どもたちが多様な能力や個性に応じ、それぞれのペースで学習を進められる教材や方法

2025 年 9 月 27 日(土)、28 日(日)の 2 日間、香川大学教育学部（幸町北キャンパス）を会場として、第 37 回研究発表大会（対面）が開催されます。「深い『探究』の学びに導く教材の在り方」をテーマにシンポジウムが開催される予定です。深い探究的な学びについて、そして、教育の未来について、じっくりと語り合える大会になることを願っています。

〈特集〉

学習指導要領の改訂によって教科書はどのように変わったか

１、家庭科

横山　みどり　　筑波大学附属小学校

小学校家庭科を中心に考える。現学習指導要領となって教科書が変わった点として、ここでは以下の２つをあげる。

・(生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善する)という一連の学習過程をいくつかのステップに分けて各題材に当てはめ、学習の進め方をわかりやすくした。

・該当する(生活の営みに係る見方・考え方)を題材ごとに明確にし、生涯にわたってよりよい生活を営むために工夫する視点を示した。

では、変わらないことは何であろうか。近年、小学校家庭科を指導する専科教員の割合は少なく、またそれも若手が中心である。そのような状況を受け、教科書紙面には指導に不慣れな先生方の助けとなることを意図した構成も見られる。だが若手教員からは、「教科書通りに指導ができない」「時数に限りがあるので教科書の内容が全ては指導できない」などの声がきこえ続けている。これらは、目の前の子どもたちにとっての「よりよい授業」を十分にイメージできていないということではないだろうか。「教科書を指導する」のではなく、題材指定など指導する基本的な内容はきちんとおさえた上で、子どもたちの実態や学校行事などを踏まえ「教科書を使って」どう学習を進めるかを考えていきたい。

２、生活科

関根　千保　　熊谷市立妻沼南小学校

生活科で育成を目指す資質・能力は「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力の基礎」「学びに向かう力、人間性」である。

幼稚園教育要領等に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたスタートカリキュラムを 1 年生の教科書の最初の単元とすることで幼児期との接続を図っている。また、3 年生以降の社会、理科、総合への学びの接続も意識した教科書となっている。

生活科では具体的な活動や体験を通して低学年らしい思考・認識を育成することが求められている。そのために自分の活動や体験を振り返り、表現・交流することが重要である。教科書では、活動したことを振り返り表現する場面で、ICT 機器の活用を掲載している。教科書を参考にすることで児童は絵、劇などの表現方法だけでなく、ICT 機器使用の表現方法を知り、表現に広がりがでる。

QR コードを読み取ると、挿絵の動植物の名前や特色が分かるようになっていたり、昆虫の羽化の様子が動画で見られたりする教科書もある。児童の「知りたい」という思いに応え、個別最適な学びにつながると考えられるが、体験や活動を通さない学びになってしまう懸念もある。児童に QR コードを使わせるねらいを教師が明確にする必要がある。

〈シンポジウム〉

日本教材学会　第 36 回研究発表大会

花園　隼人

シンポジウムは「生成 AI と教材」というテーマのもとで、ワークショップを伴って 1 日目に開催された（ワークショップ 60 分、シンポジウム 90 分）。テーマの趣旨、登壇者の氏名、及び、概要は次のとおりである。

【テーマの趣旨】

本シンポジウムでは、昨今加速度的な発展を遂げ、教育現場において無視できない存在となってきている生成 AI の活用やその教材化など、生成 AI と教材との関わりについて議論を深める場を設定したいと考えた。

生成 AI は、多大な利便性がある半面、様々な懸念も指摘されている。児童・生徒の発達段階や実態に即して、各教科で生成 AI とどのように向き合い活用していくべきかについて検討する必要がある。現在、オンラインを含む生成 AI に関わるセミナーや研修が、毎月複数回開催されており、関心が高まっている。一方で、学校現場での実践については、まだパイロット校での活用

に限られている状況であり、実践研究の蓄積が急務である。

このような背景を踏まえ、本シンポジウムでは、生成 AI と教材との関わりや教材化の可能性について、これまで得られた重要な情報や知見を共有し、理解を深めることを目指す。

プログラムは、ワークショップ（60 分）とシンポジウム（90 分）の 2 部構成で企画した。

ワークショップでは、「生成 AI を活用した授業設計」について、授業を設計する教師の視点から、参加者の皆様に、生成 AI を実際に活用する体験の機会を提供する。シンポジウムでは、特に子どもの活用の視点を踏まえた「授業実践への活用」に関する話題提供をしていただき、ワークショップを含めたこれらの事例を具体的な材料として、「教材学」の視点から生成 AI と教材との関わりについて認識を深めたい。

【登壇者の氏名及び提案のタイトルと概要】
コーディネーター : 渡壁　誠（北海道教育大学旭川校）

〇ワークショップ : テーマ「生成 AI を活用した授業設計」
講師 : 山本利一（埼玉大学教育学部）
講師 : 北畠謙太郎（株式会社メディアファイブ）

〇シンポジウム : テーマ「生成 AI と教材」
シンポジスト : 中里彰吾（文部科学省指定　生成 AI パイロット校　札幌市立中央小学校）
シンポジスト : 朝倉　徹（東海大学）

◇ワークショップ

ラーニングスケルトン AI（略式 : LSAI）による生成 AI を活用した授業設計について、体験的に学ぶ機会が設定された。参加者は、配布された臨時 ID を用いて、LSAI に具体的な授業の指導案を尋ねることによって、AI を用いた指導案作成を体験した。LSAI が提案した指導案が意図に合わないものであった場合には、より質問を具体化して問い直し、期待する授業の指導案へと漸近的にブラッシュアップした。体験後には実際に操作した感想が共有され、その即時生・利便性のほか、生成 AI の「授業観」とのズレといった現時点での限界も確認された。

◇シンポジウム

・ 中里彰吾（札幌市立中央小学校）: 生成 AI と教材～授業実践への活用の視点から～

札幌市 GIGA スクールモデル研究校、文部科学省リーディング DX スクール指定校といった研究指定を経て文部科学省生成 AI パイロット校の指定を受けている小学校における、国語科や総合の授業での生成 AI を活用した実践が報告された。生成 AI を用いて「感想文」や「ことわざ」といった伝統的な教材に関する学習をする児童のアプローチが従来とどのように異なっているか、そして生成 AI を実際に使うことで「ハルシネーション」や「ファクトチェック」を児童が経験したりすることなど、生成 AI が「知の電動アシスト付自転車」として学びの経験をより豊かにすることが提案された。

・ 朝倉　徹（東海大学）: 生成 AI と教材～教材学的な視点から～

はじめに、「生成 AI を用いた、優れた教材の例」として、視覚支援や口頭によるコミュニケーション支援などといった、AI による学習支援アプリが紹介された。続いて、「生成 AI を用いた教育・教材への政府の対応」として、初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドラインや検討会議の論点などが説明された。また、この論点と関連して「生成 AI が社会実装されることへの懸念」として、生成 AI が事実とは異なる情報を利用して回答を生成する、いわゆる「ハルシネーション」は本質的な解決の見込みがないことや、児童生徒の読解力でファクトチェックをすることが困難であること、教員が対応を求められるとさらなる多忙につながるなどといった指摘が紹介された。そしてこれらを受けて、生成 AI の普及による懸念として人々（特に子どもたち）の「共通項を見つけるような抽象化の能力が育ちにくくなる」ことや「意味付与につながるような概念的理解が妨げられる」といった懸念が挙げられ、「理解力の低下」「問題点の発見やそれへの指摘能力の低下」「批難的思考力（分析力・懐疑力）の低下」といった観点を補填する教材の開発が、「これからの教材・教育」として必要になることが提案された。

各支部活動報告

１．　関東・甲信越支部活動報告
(1)新支部役員の選出（10 月総会以降変更あり）
2024 年 10 月 6 日の総会で承認いただきました支部役員の交代がございましたので、お認めいただきますよう、お願い申し上げます。
支部長：増田有紀（埼玉大学）
副支部長：森　薫（埼玉大学）
会計：藤井大亮（東海大学）
会計監査：成田慎之介（東京学芸大学）
(2)役員会の開催
（第 1 回）期日：2024 年 8 月 29 日（木）13 時～14 時　開催方法：オンライン
（第 2 回）期日：2025 年 3 月 5 日（水）10 時～予定　開催方法：オンライン
２．東海・近畿・北陸支部
以下の要領で名古屋柳城短期大学にて総会と研究会を開催する予定です。
(1)日 時:令和 7 年 3 月 22 日(土)午後 13 時 30 分~午後 16 時 20 分
(2)場 所:名古屋柳城短期大学(名古屋市昭和区明月町 2-54)(オンラインでの参加可)
(3)テーマ:持続可能な開発のための教育(ESD)・持続可能な開発目標(SDGs)と教材
(4)内容
①支部総会
②研究発表
③講演「ESD・SDG s 活動と教材（仮）」
３．中国・四国・九州支部
2024（令和 6）年度の日本教材学会中国・四国・九州支部の活動としては、九州支部の担当で副支部長である小池英明氏を実行委員長として、2024 年 10 月 19 日（土）にオンラインで以下の研究発表大会および総会を行った。
(1)日時：2024（令和 6）年 10 月 19 日（土）
13：00～15：30
13：00～13：15　開会
支部長挨拶、学会長挨拶、実行委員長挨拶
(2)会場:大分県竹田市　(有)小池教材(web 開催)
(3)テーマ:「ICT 機器の活用と新たな教育の質の獲得のために」
(4)内容
①講演　講師：大阪教育大学名誉教授　柳本朋子
演題:「これからの教育における ICT の活用について」―算数教育の視点から－
②実践報告　日章教販　山野　正人
「学校現場における ICT 教育の現状と図書教材販売店として取り組む GIGA2.0」－Google for Education Champion として見る福岡県－
(５)支部総会
支部総会においては、2024（令和 6）年度の事業報告、同決算報告、2025（令和 7）年度の事業計画（研究発表大会・総会等）、2025（令和 7）年度からの支部役員の改選について、Zoom で提案し、その後のメール審議によって了承を得た。なお、2025（令和 7）年度の研究発表大会・総会については、四国支部の当番で、第 37 回日本教材学会研究発表大会との合同大会として、香川大学を開催校として 2025（令和 7）年 9 月 27 日（土）～28 日（日）の二日間での開催であることが提案され、了承された。また、2025（令和 7）年度からの中国・四国・九州支部の役員（任期３年）については、下記のメンバーの選出が提案され、了承された。
・支部長　内垣戸貴之（中国地区代表）
・副支部長　鈴木　正行（四国地区代表）
小池　英明（九州地区代表）
（＊会計については、福山大学秘書室が担当）

事務局だより

・新入会員のご紹介
下記「議事報告」に記載しました 2024 年度第２回理事会までで承認されました、新入会員の皆様です。ご所属は承認時のものです。

氏名	専門等	勤務先
兼安章子	家庭科	福岡教育大学
中嶋太	社会科・生活科	西東京市立東伏見小学校
浅井哲司	国語	香川大学教育学部
柿田みずき	国語	教育同人社
阿部由夏里	国語	教育同人社
江原謙介	道徳科・社会科	阪南大学

・議事報告
2024 年度第 1 回理事会

日程　2024 年 10 月 5 日（土）
報告事項
(1). 第 36 回研究発表大会の件(実行委員会)
(2). 各委員会活動報告の件（各委員会）
(3). 各支部活動報告の件（各支部）
(4). 第 36 回日本教材学会総会の件
(5). 2025 年度研究発表大会の件

〈第 37 回研究発表大会 香川大学　2025 年 9 月 27 日(土)～28 日（日)〉
協議事項
(1). 学会賞授与の件（学会賞選考委員会）→了承された。
(2). 研究プロジェクトの件→了承された。教材学研究の報告の後ろに研究報告書を載せることとなった。査読は行わない。
(3). 13 期役員の件→名簿表記に誤りがあることの指摘を受け、修正をすることで了承された。
(4). 会則検討の件→了承された。
その他
(1). 新規入会会員承認の件→前回の常任理事会より後の入会者はいないことが報告された。
(2). その他→細川事務局長から今後の学会運営について理事に意見を求めたいという依頼があった。その後、山田雅彦監事より、事務局や委員会の運営の問題だけでなく、学会そのものの活性化を議論するための委員会を設置するなど、抜本的な対策を促す要望があった。
※本来総会の前に理事会で決算について承認を取らなければならないのですが、その手続を抜かして総会で承認をとってしまいました。昨年もそのように進めていました。この後臨時理事会を開いて、承認を得る手続きを取ります。

2024 年度第 2 回理事会
日程　2025 年 2 月 15 日(土)(zoom による Web 会議)
報告事項
(1) 2024 年度各委員会活動報告の件(10/1~1/31)
研究企画委員会(1)、研究紀要委員会(2)、広報委員会(3)、学会賞選考委員会(4)、研究倫理委員会(5)、会則等検討委員会(6)、教材士資格制度化検討委員会(7)、役員選考委員会(8)
(2) 2024 年度各支部活動報告の件(10/1~1/31)
東北・北海道支部(1)、 関東・甲信越支部(2)、 東海・北陸・近畿支部(3)、 中国・四国・九州支部
(3). 第 37 回(2025 年度)研究発表大会の件
(4). 第 36 回研究発表大会会計報告
協議事項
(1). 会則変更の件→承認された。
(2). 研究プロジェクトの件→２件は承認された。残り１件は次の４月から会員となるため、審議ができなかった。今年度は受け入れることとし、来年度は申請時に会員であることを明記することとなった。
(3). 新規入会・退会会員承認の件→承認された。
(4). 2026 年度事業計画(案)承認の件→修正し、承認された。また支部会で大会開催校をどのように決めるかのリズムを考えていくことが市川副会長から報告された。更に、澤崎会長より学会創立 40 週年に向けての特別委員会委員長に細川太輔氏に担当していただくことが報告された。
(5). 2026 年度予算(案)承認の件→承認された。
(6). 2026 年度年間予定(案)承認の件→会議の日程が変わる可能性があるという前提で承認された。
その他
　森役員選考委員長から、支部長を常任理事とすることで役員選考委員会に諮ることが報告された。このあと臨時理事会で今年度中に承認する方向で進めていく。
　澤崎会長から、今多事務局員が退職されるに伴い、退職金をお支払いすることが諮られ、承認された。
　澤崎会長から、「日本教材学会研究発表大会実行委員会細則」の「別紙」の一部を変更することが提案され了承された。(「日本教材学会研究発表大会実行委員会細則」「別紙」2 会計：・大会費用の分担（30 万円を 40 万円。なお、既に 2025 年度、2026 年度の予算案に記され了承されている。)
　澤崎会長から、新事務局長、新事務局員の候補者について報告があった。

☆事務局より
　今年度で、事務局長と今多勝代事務局員ともに任期終了となり、４月より新体制となります。会員の皆様のお力添えに心より感謝いたします。

◆編集後記
　今号の特集は 50 号のテーマを引き継ぎ、家庭科と生活科で寄稿していただきました。これからも会員の皆様には執筆のご協力をお願いいたします。（広報委員　三小田　美稲子）